



さくら 2012 新春

発行
社会福祉法人 東桜会
第 34 号
〒420-0962
静岡県葵区東 527 番地の 1
特別養護老人ホーム 麻機園
TEL 054(247)8739
FAX 054(247)8640

あけましておめでとうございます

平成24年の静岡のお正月は大変穏やかに明けました。昨年は、3月の大震災と原子力発電所の事故に関する事で1年が明け暮れましたが、年が明けたとはいえそれらの後遺症がすぐに治まるわけではなく、今後数十年をかけて復旧に力を注がなくてはなりません。現地からは遠く離れた私たちも、引き続き復旧に協力し“絆”を深める努力をしたいと思います。

話題は変わりますが、今年の4月には介護報酬の改定があります。昨年末までの情報では、施設はマイナス 2.2%、在宅はマイナス 0.6%の改定となる見込みですが、数年前に取りざたされた介護職員の処遇改善の問題が全て解決されたわけでもなく、また施設の収支状況が全て順調に推移している訳でもない現実である中、この改定の中には「介護職員処遇改善交付金」としていた額も含んでいるとのことで、今後3年間は益々事業の経営や舵取りが難しくなることが想定されます。一方ではご利用者の処遇に関する品質は向上させながら、職員のキャリアパスと共に処遇向上も引き続き行う必要があります。更に施設設備の老朽化に伴う維持管理経費の増大もあります。介護報酬の減収が見込まれたとしても事業の継続は必須の事柄です。知恵を絞りながら職員一丸となって問題を解決していかなくてはなりません。こんなところにも職員間の絆が求められます。

昨年の漢字として選ばれた“絆”ですが、人と人とのつながりの中で仕事をする私たちにとっては、何時でも心に持ち、思い続けることが必要な漢字だと思います。東桜会では、今年の漢字“絆”としたいと思います。

麻機園 園長 秋山 通

新年の鏡餅を作ろう！！

新年を迎えるための鏡餅作りを12月28日に行いました。入所者の方々に餅つきを見ていただいたり、鏡餅を作っていたりする予定でしたが、残念ながら入所者間に風邪が流行ってしまい計画で終わってしまいました。しかし、入所者の方々には、職員が力一杯つ



いたお餅を「からみもち」や「あんこもち」で食べていただくことは計画通り行うことができ、「やっぱりつきたたてのお餅はおいしいね。」と大好評でした。また、今年の麻機園玄関ホールは、職員手作りの大きな鏡餅が皆さんをお出迎えしています。



麻機園 寮母 小澤千裕

新入職員の紹介



昨年10月よりお世話になっている櫻田です。戸惑うばかりで皆様には迷惑をかけていることと思いますが、早く慣れ入所者の方に名前をおぼえていただき、ここでの生活が穏やかに楽しく過ごせるように役に立てればと思っています。毎日が勉強、成長していきたいと思っています。よろしくお願ひします。

麻機園 寮母 櫻田幸一



～新春の集い 元旦～



新年あけましておめでとうございます。2012年元旦、「新春の集い」を開催しました。新年の挨拶の後に、職員の着物姿を披露し、入所者の皆様は「昔はよく着たね」「懐かしいね」「色が綺麗ね」と昔のことを思い出している様で目を輝かせていました。

続いて今年の年男・年女の入所者の方々に挨拶として「健康で過ごしたい」、「今年も皆さんと仲良くしたい」等、一年の抱負を発表して頂きました。また寮母による出し物で切り絵を行いました。出来上がった“鏡餅”と“つる”を披露すると歓声が上がり盛り上がりました。

最後に“今年も健康でありますように”と願いを込めて獅子舞に扮した職員が入所者の方々を囃んで回りました。獅子舞は、除魔招福の信仰があり、悪い事を払い、世を祝う縁起物です。新春の集いに参加できなかった方にも、今年も健康で過ごせるようにと各居室を囃んで回りました。

私達職員も今年一年入所者の皆様が健康で楽しく過ごせるように、誠意を込めて頑張っていきます。

【 3階食堂 】



【 2階食堂 】



【 1階居室 】



～書き初め 1月2日～



そして2日には『書き初め』を行いました。お題は今年の干支の『辰』にしました。参加された入所者は、まるで「今年もよい年でありますように」と祈っているかのように、筆に想いを込めて書いていました。中には、自分が納得するまで



見本を見ながら何枚も書いていた方や、時間が経っても「まだ書けないよ」と仰る方などもありましたが、皆さん筆を持ち真顔になって一生懸命書いていました。書き終えた後はどの方もすがすがしい顔をしていました。

麻機園にご来園の際には、各居室入口に展示してある力作の書初を是非ご覧になって下さい。

麻機園 寮母 江井健太

私が介護士になった理由

土屋綾乃

私が初めて介護に興味を持ったのは中学一年生の時です。障害者の施設に行きました。そこは一八歳以上の知的障害者の施設でした。私は初めて知的障害者の方と接しました。始めはどう接して良いのかわからず話すことすら上手く出来ませんでした。しかし時間が経つにつれて徐々にコミュニケーションを取ることが出来るようになりました。それでも相手の言いたいことや思っていることまで理解する事が出来ませんでした。相手の表情や行動でその人が今何を思っているのかを理解する事はとても難しい事を実感しました。また、理解したいのになぜ出来ないのだからという悔しさがありました。その悔しさがきっかけになり、もっと介護のことについて知りたい、もっと障害について知りたいと思うようになりました。

そしてもう一つの理由は、小さなときからお年寄りが大好きな事です。私には一緒に暮らしている祖父がいました。祖父は、私が高校二年生の時に祖父が体を壊し、介護が必要になりました。しかし、私を含め家族には介護の知識がほとんどありませんでした。祖父は体の病気以外に認知症にもなり祖父への接し方がわからなくなってしまいました。それまでは普通に話していたのに、いつからか同じ話を何度もしてきたり、私の名前まで分からなくなっていました。私はとても悲しくなり、一時期祖父と関わることも嫌になりました。でも昔から大好きだった祖父の為に、介護の勉強をして介護士になろうと決めました。

麻機園に入職して一年半が過ぎました。入職したばかりの頃には、仕事にも慣れず利用者とも上手く接することが出来ず、ただただ利用者の名前を覚えることで精一杯でした。認知症の利用者ともコミュニケーションが取れず、何を思っているのか理解出来ませんでした。少しずつ接する時間が増え、表情や行動で今何をしたいのかがわかるようになってきました。

まだ慣れないことが多く、御利用者の皆様や先輩職員に沢山迷惑をかけてしまうと思いますが、今後も頑張って仕事して利用者から信頼される介護士になるよう努力したいと思えます。